日光道中畧記 七

和書門
類 二八四五二號
八四函
一一架
一一冊

内閣文庫
和書類
二八四五二號
一一冊
一七七函
一七架

内閣文庫
番號 和 28452
冊數 11 (10)
函號 177 1017

国立公文書館
National Archives of Japan

国立公文書館
National Archives of Japan

日光道中畧記巻之七

起于下戸祭村止于大澤宿

下戸祭村 野州河内郡

江戸より廿七里廿間 戸田越前守領分 開發の年代詳ならされとも むかしハ一村なりしを後に二分して上下とし 日光の驛路ハ上とさたむ 往古ハ宇都宮弥三郎正綱の舎弟戸祭備中守當所に居住せしとし 今は村落ハその代の城蹟なりとて 湟の跡なと猶存せりと云 備中守の家臣なりしもの子孫なるよし残せり 中にも官名を以称するもの六人兵庫治部

日本政府圖書
明治十四年購求

右京進殿之助内記内藏之助等あり里正左平次
鈕頭善左衛門なるものハ内藏之助か子孫なりと
いふ

二重街道

宇都宮宿末より街道の中央ニ土手ありて
往還二道にわかれて其間六町ほとあり土人これを
二重街道と名つく右のかたハ日光道左ハ車道にして
新里村へ達ス

雷神社 右

嶋田村の地内松山の上ニあり土人これを雷神
山と名つく嶋田村の鎮守ニして宇都宮宿
粉河寺の持なり

山神社 右

雷神山のつゞき杉森の内ニあり村内金性寺
持

八龍神社 右

同寺の持

八幡社 右

嶋田村の内ニあり村の鎮守なり粉河寺持

祥雲寺 右

禅宗都賀郡玉田村瑞光寺の末戸祭山と号す
本尊釈迦を安置す當寺ハ文明二年宇都
宮彌三郎正綱の弟戸祭備中守高定の草創に
して本寺瑞光寺の三世雪江を開山とす大永
五年寂す寺領三石ハもとし先
東照宮の御寄附なりしを慶安年中御書替
の命ありし時住僧病にかゝりて出府遅滞せし
ゆへ　御朱印を褫しきれしを領主奥平美作守
の訴によりて寺領三石ハ先規のごとく寺納せりと
いふ

天神社
稲荷社
庵
鐘楼
境内にあり天神ハ境内鎮守なり稲荷社ハ
石を以て作れり
稲荷社右
金性寺持
神明社
天神社

二社とも小本社の傍よあり

金性寺 右

天台宗宇都宮宿寶藏寺の門徒なり塙田山と号ス文政六未年焼亡して薬師堂のミ残れり

和尚塚 左

畑の中小あり拾五間四方小して高さ八尺斗由来詳ならず

鎧塚 右

畑の中よあり高さ二六尺幅弐間由来詳ならず

高尾明神社 右

八幡山のつゞき松山小あり村の鎮守なり村内金性寺持

野山 右

上下戸祭村入會の地なして高尾明神の山つゞきなるゆゑ山ふして南へ向き岩あらハに見ゆ此辺往還より右ハ宇都宮明神の森慈光寺の松山それよりて打続きたる山々一眼に見わたせり左のかたは曠地ひろく戸室山多氣山不動及ひ古城蹟其余古賀志山新里山徳次郎山まで見渡し近くハ六軒新田の林など見へて眺望最

上戸祭村

江戸より廿七里三拾弐町廿間戸田越前守領分開發の年代詳ならずいにしへ一村なりしを後に分村せしといふ民居もむかしハ右のかたハ大日権現山の麓にありしが日光街道次第に盛になりしにより人民往還の左右に居を移し今のごとくに村落となりしといふ

東泉寺 左

天台宗宇都宮宿吉祥寺の末醫王山と号す本尊不動を置り当寺ハ寛文年中村民当所へ移りてより後に起立せりといふ

摩利支天祠

境内にあり

薬師堂

門前にあり東泉寺建立以前より存せりといふ

高地蔵 左

寺内の小名にあり塚の前に高さ壱丈余幅壱尺余の巨石を立上に方八九寸許の穴あり四五十年前まてハ穴の中に地蔵の首も見えてありしが

今ハ生ひさし穴のこれり此辺寒氣冽補ゆへ氷凍
のため小損敗せりもしくハ方形に作りし石も稜角
墜落せし消えなれと碑面の文字漫漶して讀がたし
傍に至徳四年丁卯八月七日の文字あり土人ハ高地
藏と唱ふるものハ此ての地の迎へと志るし次又此石に祈
願しぬれハ往々霊驗ありとて崇尊大方ならず
傍に宝暦年中寄納の石燈籠あり

妙言貞禅墓 左

高地藏のうしろ塚の高さ壱丈餘あり其上ニ五輪
の石塔あり土人これをも高地藏と唱ふ昔新田四郎
といふもの其身の長大なるを人に知らせんとて
身のたけをはかりて作れるなりとし下野風土記に
のせたり又此碑を太平記に記せる所の夢窓國師
の法眷妙吉侍者の碑なりといふ今志るしたる碑面の
字畫ハ篆をまねよ髣髴としかも分明ならざれども
恐らくハ妙言なる庵主又妙言貞禅なるものとも
何等の人なる事を志らず次

高尾明神社 左

高地藏のうしろに小山あり村内東泉寺持社地の
さま檜杉なと茂りて神さびたる宮居なりむかしハ

下戸祭村の鎮守なりしが後ふ當村の鎮守と
せしと云

長岡山 右

長岡村の内ふして野山の流きしなり此山の裏ゟ
岩穴数多あり往昔弘法大師此山よ来り一
夜のうちに観音の像百体を石ふて刻ましゝか
そのこと終らざりしを心よ應せざるなどいひて記さん
其夜の中ふ荒針村の大谷よいたりて岩山に観
音の立像を刻めるなりしなりとぞ坂東三十三所の
内十九番なるよし

大日權現社 右
長岡山の出さきよあり東泉寺持

神明社 右
村民持

念佛塚 左
塚上よ松樹あり土人のいへるハ念佛塚と唱ふる塚
数多ありし其故ハ古来より十三年目ごとに村民うち
よりて念佛を唱へ塚を築くことありしされといまし
一築きしハ其形大ふして久しく存せしとも近き
比作りしハ形小なれハ程なく陵夷して平地と

かるゝ云

一里塚
日本橋より廿八里

稲荷社 右
長岡山の峯続き沖の森にある村民持

野澤村
江戸より廿八里拾七町二十間戸田越前守領分なりしより宇都宮城附の地なり往古ハ民家往還より東にありしが日光街道開基ありし後今のごとく往還の左右に移りしといふ当村ハ宇都宮宿より徳次郎宿までの中間にして憩息に便利なれハいつとなく人足の立場となれり

釜川
川幅六尺水源ハ当村の鎮守辨天の前より湧出る泉にして末ハ上戸条村へ達し宇都宮宿ちかく田川へ落

石橋
釜川に架ス長七尺幅壱丈四尺此辺より右の方長岡山沖の森横山村の山々左の方ハ田下村の多氣山新里山鞍掛山など見(九)

御茶屋場跡 左

寛永年中日光
御參詣のとき御茶屋を設られしといふ光明寺
の地内なり

光明寺 左

真言宗宇都宮寺町生福寺の末 寶珠山玉
塔院と号し本尊ハ大日を置り

薬師堂

天神社

境内にあり

神明社 右

村民持

静櫻 右

土人の傳へにむかし源九郎義經の妾静女當所に
来り携へたる旅の杖を立置しか生活して大樹
となり其花一枝に八重一重咲まじり尋常の
櫻に異なりむかしより両度ほと枯木となり
しか根本より又ひこばえ生して絶ることなし此
そとに塚二ツあり何人の墓なるやをしらず穿つ
ものハ必災ありといふ下野風土記にこの櫻

のこしゝ彼の地にて靜女下野國へ来りしと
いふことおほつかなし况して此地にて死せる
さまて彼まて疑はしきこの里人ハ都にて
靜櫻なといふ種をとり来りて植しもの
なるを又或る人のいふ此木靜女のうゑしに
あらし彼それと名もなき木なりしかやさしき
名を清する所のなにかれせんとて常の
櫻より花の遅く咲をめて靜櫻と名付
しを年ふるにしたかひて種々の説を附會せし
といふ

星宮 右

別當光明寺

辨財天祠 右

同寺持

下金井村

江戸より廿八里三拾四町二拾間戸田越前守領分む
かしは宇都宮城附の村なりしか一村なり
し彼後に二分せりと云

毘沙門山 右

横山村の地内にあり

虚空蔵山右

毘沙門山の続きなり二山の麓より見ゆる人家ハ
下横倉村なり

六所明神社左

藤岡新田の内なり新田の鎮守にして村民の
持なり此新田ハ上州藤岡のもの来りて開発せし
となり

鶏渡権現社右

村の鎮守なり村民持社地よ稲荷の小祠あり是も
凡石にて作れり

和賀都明神社右

村民持村の鎮守にて壱尺余の石社なり社地ハ
山神祠なり

稲荷社右

村民持にて是も鎮守にて壱尺余の石社なり

大日権現塚右

蓮蔵院持

蓮蔵院右

真言宗上田原村西方寺門徒本尊地蔵長
壱尺餘當寺ハ元和九年の草創にして開

山を英運といふ
藥師堂 右
村民持本尊藥師の傍ニ地藏を置り
庵一宇 右
村民持
上金井村
江戸より二拾九里拾七町二拾間戸田越前守領分
西光院 右
眞言宗上田原村黒石山西方寺の末本尊弥陀
を安置ス

雞權現二社 右
家内神社 右
高尾明神社 右
摩利支天祠 右
五社ともに村内西光院持
下徳次郎宿
江戸より貳拾九里二十五町二拾間宇都宮宿まて
二里拾三町日光の方中徳次郎宿へ四町上徳次郎
宿へ拾七町大澤宿へ二里拾四町戸田越前守領分
往古より宇都宮領なり地名の起ハ寶亀九年二

荒山より知賀都明神を勧請せし故日光山の
久次郎村に對し彼山の外なる義にて外久次郎村
と号し又日光よりハ遠き故にて遠久次郎とも書し
といふ後新田徳次郎なる者當所に居住せしゆへ
文字を徳次郎と改めむとし先ハ上徳次郎の一村のミ
なりし後中徳次郎村下徳次郎村門前村田
中村西根村の五ヶ村小分てより今にこれを徳次郎宿
六郷と号ける新里の庄なり城主よりの免状
なと往古一村なりしと此の侭にて今ハ六ヶ村一通
なりしと云宿驛となりし年代詳ならされと元和三

年日光へ　御鎮座ありせられし比ハ上徳次郎
宿のミにて人馬を継立しが中下の二村も願ひに
よりて享保十三年より上中下合宿と定められ一月
後三分して上十日を中徳次郎中十日を上徳次郎
下十日を下徳次郎と割て人馬継立を役す此割方
上中下の次第ハ支配當せさるなるへハ三村合宿となりし
時中旬ハ往還の旅人も多くし而継立混雑なるに
あれハ仕馴ある方なれハ扱ふへしとて上徳次郎を中
旬と定免られ遂に永例となるにて定人足二十五人
驛馬廿五疋を置り當宿本陣兵助なるものハ舊

家なりし先祖金田但馬ハ慶長年中
知賀都明神へ奉納願書交名の一人なり
其書今明神の龕中に秘藏して人に視され
といふ徳次郎三宿の産物にんじん牛房葱
干瓢なとひに白き石を出せり其質軟脆にし
て堅實ならされ宇都宮宿小山宿なとにて堂
社又ハ土藏の屋に用ゆるものなり道より左雁
行山傳法寺山より出ス其職人ハ西根田
中河前の三村に住すといふ

御茶屋跡 左

享保十三年日光
御參詣のときすてに御茶屋を設け建し
と云此所より鞍掛山羽黒山乙抱山なと見渡し
前に木立ありてたと遠ある景色なり

一里塚
日本橋より二十九里

太神宮 左
足次新田の内なり村民持

念佛塚 左

常樂院 左

當山派修驗宇都宮宿小田町寶教院の末本
尊不動を安置す

子守護山 左

西根村のうちにあり宿の入口より見ゆ其
山のかたち前に小き岩ありうしろに大なる
岩ありて小児抱けるに似たり又乙抱山とも
いふ然るを語の相通するまゝに蝙蝠山と誤り
書せしものあり近き頃何人の記行にやかゝ
りし山としるせしハ蝙蝠の誤りを承順せし
ものなるべし

稲荷社 左

村民持

明王院 左

本山修驗武州葛飾郡幸手不動院の配下富士
山と号す本尊不動を置り

神明社 左

焼失の後未だ再建に及ばず

薬師堂 左

成就院持薬師佛の傍に日光月光の二像
あり

成就院 右

真言宗上田原村西方寺の末なり今ハ廃寺となり境内草木生茂りて門構のミ残れり

古城跡 右

宿を出はなれて東へ入ば車き町といふにあり堀土居のかたち今に残れり搦手と思しきところ田川の流れをせかし新田徳次郎の居住せし城跡なりと云

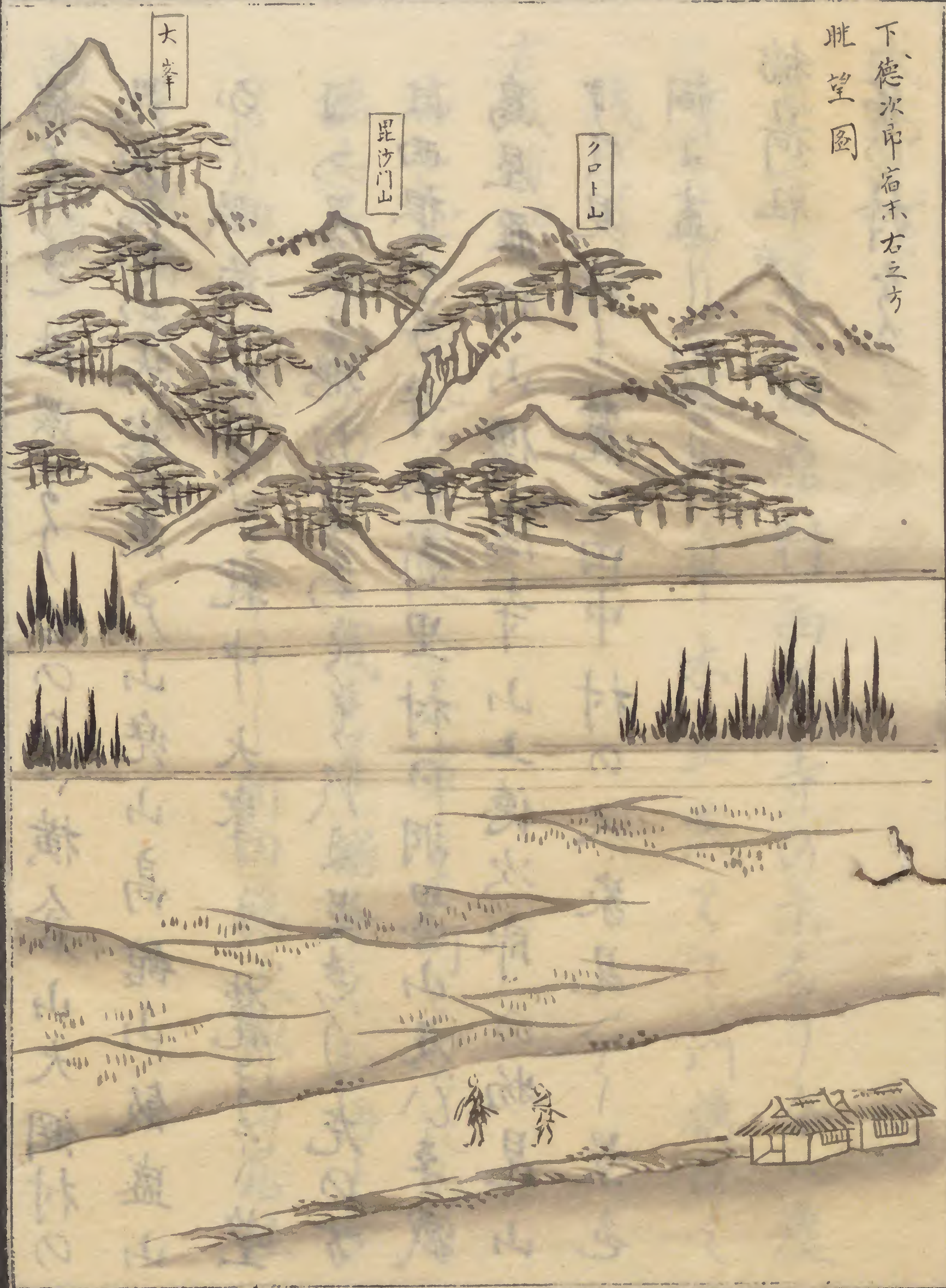
宿末眺望

宿より通往還より右のかたハ横倉山大網村の毘沙門山大峯黒戸山兜山高館山飯盛山なと眼前にあり就中大峯ハ麓まで望に入また眼路かぎりなくに足れり左の方は西根山子守山新里村の羽黒山及ひ平蔵鳥屋雁行山傳法寺山上徳次郎の物見山まで見渡し麓に田中村の人家見えて景色詞に盡しがたし

稲荷社 右

宿の持なり

下徳次郎宿東右之方眺望圖



中徳次郎宿

江戸より廿九里二十九町二拾间宇都宮宿より二里拾七町日光のかた上徳次郎宿へ拾三町大澤宿へ二里九町戸田越前守領分往古より宇都宮城附の地なり地名の起ハ開發の手代等ハ下徳次郎宿の条に辯せり

白山社 右

社辺に穢多住してこれを鎮守とす

持寶院 左

當山派修験南都三室院末不動を本尊とす境内に神明社あり

神宮寺 左

天台宗宇都宮宿寶藏寺の末薬王山吉祥院と号す本尊不動を置り境内小雷神の小祠ありむかしハ小庵にて吉祥坊といひしも

宿末眺望

宿をはつれ左のかた西根村の子守護山新里村の羽黒山平藏鳥屋雁行山傳法寺山物見山など眼前にそびへ佳景筆に及ばず傳法寺山雁行山の頂より少しくだりて積雪のごとく見ゆるは石工の石を

中徳次郎宿末左之方眺望圖

切出せしものなり半腹に傳法寺あり境内に釈迦堂あり往還よりも屋根のみ見ゆ其餘田中村の民家まで遥に見へて景色画るがごとし

知賀都明神社 右

石の華表高二丈七尺正一位知賀都明神の額を掲く徳次郎村六郷の惣鎮守と崇む神主入江豊後ハ京都吉田家の配下慶長五年連署のうち宮守吉次郎か末孫なりと云當社ハ人皇四拾九代光仁天皇の御宇寳亀九年二荒山より勧請神躰ハ味耜高彦根尊なり兼久三年修造の企ありて翌年正月に至り造営成東山義政のとき寳徳三年再営ありと云又慶長五年徳次郎村の民奉納の額書あり今龕中に秘蔵して他見を許されざれと下徳次郎宿の岳助するもの連署の写を蔵せり

神前

吉祥坊

宮守吉次郎

中徳次郎 入江主税
下徳次郎 金田但馬
田中村 池田丹後
粟前之膳
小堀主計
金井神兵庫

右ハ貞享年間に写せしものありしと云社領五石ハ領主より寄附なり又本社末社の修造も領主の沙汰し給ひし宇都宮領内を勧化し家造営の料とし社地の廣さ竪百間横廿五間杉槻の類社頭を掩ひて昼猶くらきを覚ゆ社前より寄納の石燈籠高さ或ハ八尺或ハ六七尺其数拾五基あり祭礼六月廿日九月十九日と定む本社ハ板屋なれとも拝殿ハ石をもつて屋根作なり

稲荷社
荒神社
三島明神社
鹿嶋明神社

雷電社

小太郎社

天神社

辨財天祠

日光三社

右社地にありし此外に三佛堂ありしが今ハ荒廢せりと云或いふもと當社ハむかし宇都宮明神日光山より遷坐のとき此ところへ旅所を構へしゆへ當社を勧請ありしと云

上徳次郎宿

江戸より三拾里七町貳拾間宇都宮宿より二里三拾壹町日光の方大澤宿へ壹里三拾貳町戸田越前守領分往古より宇都宮領なり開發ハ古きことハしらず詳ならざれどもむかし此一村なりしを分郷し今六ヶ村とせしといへハ此郷の本村なり委しくハ下徳次郎宿の条に辨ず

傳法寺 左

禅宗都賀郡冨田村大中寺の末護鷹山と号す本尊藥師ハ行基の作なり貞和五年大燈妙哲國師の開基なり釋迦堂一宇境内にあり座

像の釈迦哉安置し春日の作なり脇立文殊普賢
の二像あり
愛宕社 左
徳次郎山の頂にあり此社あるをもつて土人すて愛
宕山と唱ふ宿内安養院持
根精神祠 右
村民持
高尾大権現社 右
大網村の内にあり村の鎮守なり光明寺持
光明寺 右
同村にあり天台宗宇都宮宿粉河寺の末なり
寺傳詳ならす
田川
宿入口を流る川幅凡弐間余水源ハ下石那田村地
内より分水し一流ハ東の方大網村へ流れ入宇都
宮宿へ落一流ハ當宿の東裏を流れ宿入口より
往還の西を流れ上中下徳次郎及ひ枝郷三村の
用水となる宿入口に板橋あり長三間幅壱丈三尺
安養院 左　御小休所
真言宗都賀郡古賀志村古賀志山弘藏院

末金剛山と号して本尊ハ大日薬師の二像を安置せ
當寺ハ永徳二年の開基なりと云又日光
御参詣の時　御小休所とせられし舊例なりと
と云境内に金比羅の石祠あり
三嶋明神社 右
村民持
星宮 右
村民持石祠の内に虚空蔵の像を安置せり
物見山 左
安養院の後より陟ぎし山なり宿の左なるハ此
山の麓に接近せり是の山上より日光の方ハ目睫に
ありいつの比か日光　御参詣のとき遠見の當
所を建てまししといひ傳ふ實否をしらず次
稲荷社 左
秋葉社 左
二社ともに物見山の上にあり安養院持
牛頭天王社 左
同上村民持五尺余の石祠を建
羽黒社 左
同上安養院持

下石那田村

江戸より三拾里弐拾八町廿間古山善吉御代官所
往古ハ宇都宮領なりしにや元禄十三年まてハ宇
都宮の城主阿部對馬守領分なり同年十月　日
光　御神領となり寛政四年四月川崎平右衛門
御代官所となりしより今は御料所なりむかし
は一村なりしをいつの比か上下二村にわかてり開発
の年代地名の起りも詳ならねと土人の説は當村ハ
山或は畑ともに石多くして耕作は困苦なる也
石灘の義なりといふ一笑すへし

一里塚
日本橋より三拾里

石那田川
水源ハ都賀郡七里村尾立石の前明神川よりして
流れ出野口村にて往還の西に流れ赤堀と唱
へ今市宿辺よりハ大堀と唱ふ當村にて上猪
倉村の流水へ落合一筋となり末は大渕村に
かゝる此辺にて田川と唱ふ

大橋
石那田川に架す長八間幅弐間半

稲荷社 右
村民持
大學院 左
本山修驗宇都宮明學院配下高石山天王寺と号し本尊不動を置りむかしハ正藏院と号せしと云
根猜明神祠 右
大學院持本社の右に金比羅祠あり
上石那田村
江戸より三拾里弐拾八町弐拾間事ハ下石那田村にちかし
普門院 左
真言宗都賀郡古賀志村弘藏院の末愛宕山延命寺と号し本尊弥陀を安置又延命地藏の木佛あり境内堂中の本尊とす
不動堂 左
普門院持
池鳥屋 左
石那田山のうち頂上より三間ばかりくだりて廣さ三四間ばかりなる池あり此水大旱にも枯るゝこと

かし土民此池にて祈雨の法を行ふに必らず験
ありと云

小池山 右

小池村にあり

湯殿権現社 左

村民持

浅間社 左

村民持湯殿権現の北にありひとつ猿塚の上に鎮
座して塚のうちに猿を盛りしつくなきをもて名付
といふ

龍興寺 右

小池村の地内にて愛宕山の麓にあり真言宗嶋
田村能延寺の末小池山和光院と号す本尊は弥陀
の坐像を置り境内に青龍権現の社あり

愛宕社 右

小池村の内山上にあれば故に此山をも愛宕山と名
つく地蔵の石躰は神躰として龍興寺持

栗室山 右

愛宕山のならびなり

鳥居杉 右

小池村の内畑の中に杉の大木三株ありて星
宮鳥居杉と唱へしが近きに雷火に焼て後
伐掃しといふ
高麗大権現社左
村の鎮守なり神主手塚山城
稲荷社
大杉大明神社
右社地にあり
小池村
江戸より三拾壱里五町壱拾間古山善吉御代官

所往古ハ宇都宮領なりし処元禄十三年より日
光御神領となり寛政四年川崎平右衛門御
代官所となりて其後今に御料所なり
牛頭天王社右
別當龍興寺
星宮右
神明社左
稲荷社左
三社ともに村民持
新渡大権現社右

別當龍興寺神躰ハ石の不動を安置して社地ハ大杉稲荷の二社あり

一里塚

日本橋より三拾壱里

山口村

江戸より三拾壱里弐拾四町二拾間戸田越前守領分往古の領主詳ならす寶暦年中より明和年中まてハ御料所にて河合市之進支配のとき宇都宮領となり其後又御料所となり春田清右衛支配のとき安永年間よりして宇都宮領となりし

としいふ

光照院 右

真言宗都賀郡古賀志村弘蔵院の門徒なり医王山と号して本尊大日なり又弥陀を安置せり

辨財天
瀧尾権現
高尾権現 合社 右

村の鎮守なり光照院持

藥師堂 右

山上にあり此堂あるゆゑに土人まて薬師山といふ

光照院持

天王社 右

薬師山のつゞきなる山の半腹に石の社あり安永三年の勧請なりされば天王山と名つく光照院持

大日堂 右

山上にあり大日山と名つく光照院持

經塚 右

来由詳ならざれど塚上に大樹の松一株あり枝葉繁茂して並木の松よりハふるく見ゆ此樹に手を觸れハ必祟ありとて土人近つかずといふ

大澤宿

江戸より三拾貳里三町二拾間下徳次郎宿より二里拾四町中徳次郎宿より二里九町上徳次郎宿より壱里三拾二町日光の方今市宿へ二里日光 御神領往古ハ板橋將監の領知なり其後宇都宮領に属し後年日光御神領となり山口圖書までに支配せし寛政年中より日光奉行の支配となるむかしハ大澤村と唱へし元和三年日光 御鎮座の後街道ひらけ始しにより宿驛の数に入りて大澤宿といひならハし唱ふ人足廿五人驛馬廿五疋を置く前

後宿及ひ會津道大桑村への継立をも役す當宿山口村
境より往還の左右杉樹蔚茂して日輝をさへきれり是
慶安元年松平右衛門大夫正綱か植しところなり

植杉碑 左

杉並木のうち堤上にあり

銘曰

下野國都賀郡小倉村同國河内郡大澤村同國
同郡大桑村自此三所至日光二十餘年之間植
杉於路傍左右并山中十餘里以奉寄進
東照宮
慶安元年戊子四月十七日従五位下松平右衛門大夫源正綱

城山 左

板橋宿の地内にありむかし板橋将監の居城なりしと
いふ今板橋宿本陣新右衛門なるものハ将監か家臣
大貫氏の末孫なりといふ城山ハ即ち新右衛門か持な
り

観音山 右

山の中腹に岩窟二ツあり一ハ観音三拾三躰の像一ハ
七観音の像あり故に観音山と名付く

天神社 右

国立公文書館
National Archives of Japan

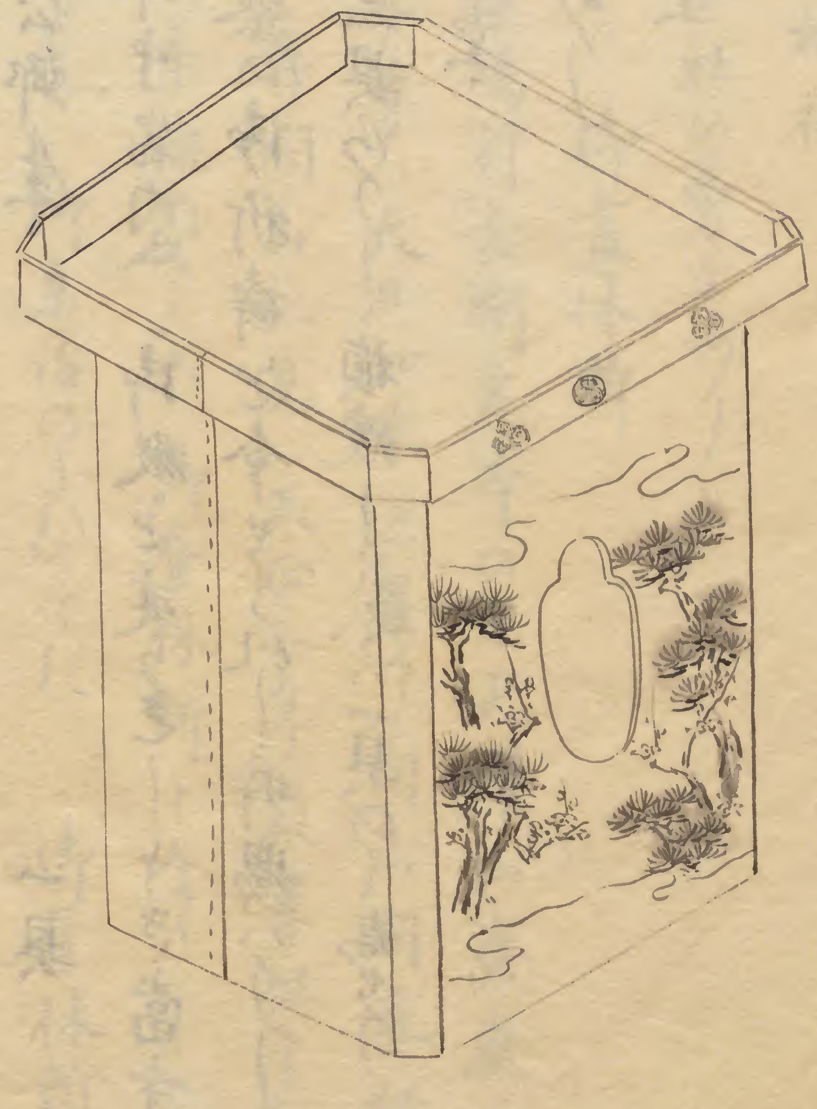
山上にあり土人天神山と名つく
愛宕社 右
天神山のつゞきにあり土人愛宕山と唱ふ
川久保川
水上ハ西の方水無村より流来り南の方山口村へ入川
幅九尺往還に板橋を架す長弐間幅弐間
白山社 右
宿の入口にあり傍に穢多もあり
太郎権現社 左
八日市村の内にあり村民持村の鎮守なり

稲荷二社 右
村民持
観音院 右
真言宗宿内龍蔵寺の末本尊十一面観音を安置す
王子権現社 右
宿の鎮守なり別当観音院
稲荷社
熊野権現社
神明宮
辨財天祠

疱瘡神祠
豊歳神祠
右六社本社の旁にあり
龍藏寺 左　御晝休所
真言宗桑鳩村金剛定寺の末大澤山蜜巌院
と号す本尊ハ大日如来を置り開山開基詳
ならす次中興開山仁見ハ天正三年寂享保十三年
日光　御參詣のとき　御晝休所となりしよりも
舊例として　御參詣のたひことに　御晝休所と
なり本堂の左に　御座所を設まうか

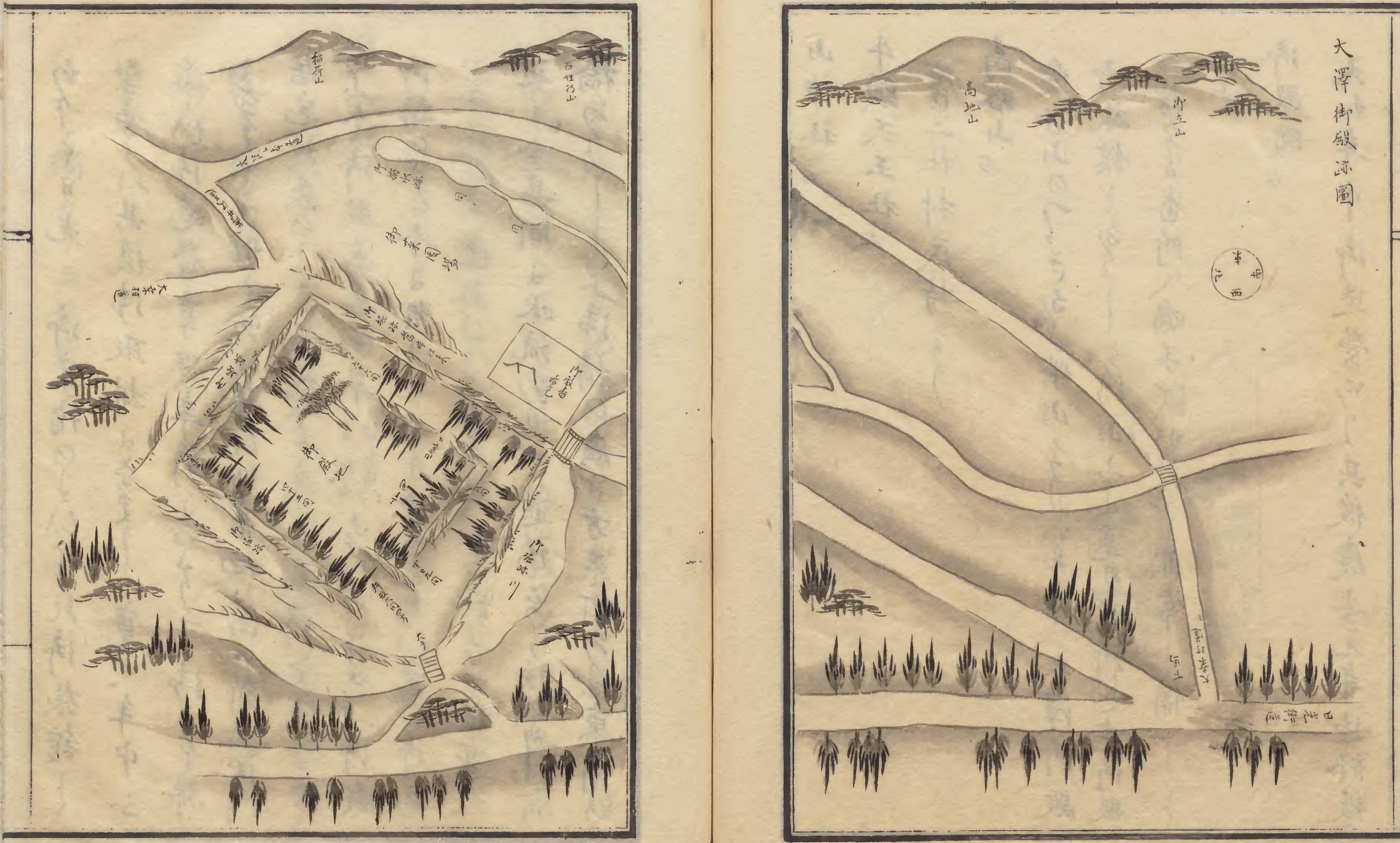
什寶
御紋附公卿臺　一具
元和年中宿内に　御殿を建られしとき當寺に
て地祭の御祈禱を命せられし時賜はりしと
いふ元三具なりしか損壞して今ハ一具のミ存せりと云
藥師堂
門前にあり
十王堂
鐘樓
境内にあり

公卿臺



山神社 右
牛頭天王社 左
右の二社村民持なり
高路山 右
愛宕山のつゞきなる柴山なりいにしへ大澤御殿
御旅館となりし後山上に遠見番所を建御殿
の傍なる番所へ鳴子縄かけて非常に備へしと
いふ
御殿跡 右
元和年中御造營ありし其後慶安元年御修復

大澤御殿跡圖



ありし日光　御参詣のたびごとに御旅舘と
なさせられ其後御取拂になりしが寛文年中に
ふたゝび御造營享保年前にいたりて御とり拂
となりし今の形となれる其比の書記ハ山口新左衛門
居宅燒失のとき灰燼となりて其傳を失へりしと
いふ今御殿番安西某（手惣次 伊左衛門）これを守れり御殿
御構のさま今に殘りて大手中の口及ひ裏口御忍
口なと其跡歴然たり大手桝形の跡より往還へ
近し今其間に水流ありて通路なしいにしへハ
橋ありしといふ御構の廣さ方壱町あり東南の

隅ニ御庭ありし池沼のかたち殘れり其比の御
庭木槻檜の二株ありし井の跡も殘れり四方土手の
上に杉あり其下にハむかし御堀ありしが今ハ埋れ
て道路となる

鱗松　右

往還杦並木の中御殿大手口の前にあり松樹
數十株生植せしさま奥鱗に似たりとて主人
鱗松と名つく

一里塚

日本橋より三拾貳里

日光道中畧記巻之七

国立公文書館
National Archives of Japan